

## 第一生命経済研究所のホームページご紹介

アドレス：<http://group.dai-ichi-life.co.jp/cgi-bin/dlri/top.cgi>（「第一生命経済研究所」で検索可能）  
4月上旬までに上記ホームページに登場したレポートテーマの一例をご紹介します。このほか数多くの詳細な経済分析レポートが掲載されていますので、経済研レポートと合わせてご活用ください。

～急速に悪化した日本経済の構造に光をあて、経済対策など対処の糸口を探ります。

2009/3/27 「平成 21 年度における家計収支の変化～対策効果と物価下落でも賃金下落で帳消し」

2009/3/23 「2桁に上昇する派遣労働者の失業率～更なる雇用保険需給要件の緩和などを～」

掲載カテゴリ：日本経済分析チームによる「日本経済の羅針盤」

～激動する世界の金融市場動向を毎週お知らせします。

2009/4/13 「Market Watching Weekly Market Report」（毎週月曜日配信）

掲載カテゴリ：梶峰義清の「マーケットウォッチング」

～金融危機のもと大きく動揺する世界経済と、日本経済の進むべき方向を考えます。

2009/3/27 「保護主義がなくなる理由～自由貿易は自由放任主義では守れない」

2009/3/17 「銀行のプロシクリカリティ問題～金融増幅作用は自己資本規制だけの問題か」

2009/3/13 「日本を経常赤字転落にさせた国際金融問題」

掲載カテゴリ：熊野英生の「金融市場の謎を解く」

～米国金融危機の今と成長力に期待がかかるアジア新興大国での景気の手がかりを探ります。

2009/3/25 「米国金融危機の行方⑥～バッドバンクとしての官民投資プログラム～」

2009/3/24 「メキシコ経済事情～米国との経済の一体化による功罪～」

2009/3/12 「中国経済マンスリー～投資堅調だが全体は依然として厳しい状況～」

掲載カテゴリ：桂畑誠治の「米国経済を探る」、「アジア・新興諸国経済」

### 編集後記

私どもの研究所には4月にめでたく結婚にゴールインしたエコノミストがいる。結婚は二人の人生の大きなイベントであるのと同時に、今の経済にとっても大変良い話である。新生活には新居を構えるなど何かとお金がかかるものである。もちろん出費は負担だが、別々に生きてきた二つの価値観が一つの生活の場を作るための、いわば前向きな支出、新しい需要といえる。

このように思うのも、目下国内経済の下支えが大きな課題になっているからにはほかならない。各種減税や給付金の支給が順次始まっているが、それが貯蓄や節約ではなく消費の増加につながる政策効果が期待されている。支給された給付金が普段の生活費に充てられるのでは、単に使う財布を代えただけで、国内需要の押し上げにはつながらない。経済政策の観点からは欲しくても買えなかったもの、新たな目的に支出されることが好ましい。

ここ数年、景気の回復局面でも消費があまり盛り上がらなかった背景には所得の伸び悩みがある。経済危機といわれる今も失業率の上昇スピードはゆっくりだが、正社員に代わって非正規従業員として働く人の比率が増え、平均賃金は伸びていない。つまり日本全体でワークシェアリングが始まっているような姿である。こんな事情もあって、低価格を前面に押し出したブランドやディスカウント販売のチェーン店が好調だという。不況下での必死の生活防衛とそのニーズをビジネスチャンスにむすびつけた企業努力は日本の現実の姿だ。ただ、日本経済全体でみればデフレがまた賃金低下に跳ね返ってくる不安を感じないでもない。今の日本には、新生活を始める二人のような胸ふくらむ気分も必要だ。

(H. U)